

ブルックリンにおける医学教育

泉 彪之助

福井県立大学看護短期大学部名誉教授

最近、*Medical Education in Brooklyn The First Hundred Years 1860 1960* という文献を入手した。演者は、この文献が書かれた翌年の1961年、ブルックリンへ留学しており、アメリカにおける医学教育の一例としてこの内容を紹介したい。

ブルックリンは、1898年以来ニューヨーク5区の一つで、行政上はキングズ郡と一致する。ロングアイランドは市の名前となっているが、本来はブルックリンのある島がロングアイランド島である。

1860年(万延元年、お玉ヶ池種痘所が幕府直轄となった年にあたる)にはブルックリンは独立した市で、人口は25万以上、認証された医師は120人であった。病院は、Long Island College Hospital (1858年創立)とNew York City Hospital (1848年創立)があった。

ブルックリンの医師たちが医学教育の必要性を感じ、1860年にLong Island College Hospitalは、学生57名を受け入れた。Long Island College Hospitalは、病理学、解剖学、衛生学をカリキュラムに取り入れ、細菌学の進歩に従ってHoagland Laboratoryを設置、看護学校を併設するなど、次第に発展した。また医学制度の進歩に伴って卒業・入学要件を厳しくした。発足当時の教員にはオースチン・フリント雑音で有名なDr. Austin Flint、また病院の同窓生にはスキーン腺で知られたDr. Alexander J. C. Skeneがいる。

1910年にアメリカの医学教育を検討するFlexner Reportが発表された。そこではLong Island College Hospitalが医学基礎教育に専任教員をおかないこと、同教育における設備が不十分であることから、Long Island College Hospitalにおける医学教育はClass Bと判定された。以後、4年間は欠陥を矯正するのに費やされ、1914年にはClass Aとなった。

1930年にLong Island College of Medicineが発足し教育部門が独立するとともに、医学教育が複数の病院で行われることになった。1932年に、精神分析学で有名なDr. A. Adlerがスタッフに加わっている。

1950年、ニューヨーク州立大学の医学部となることに決定。ブルックリンのLong Island College of MedicineがState University of New York Downstate Medical Centerとなった。この過程で、数年前からLong Island College of Medicineの教育を主に担当してきたニューヨーク市立病院の一つKings County Hospitalの向かいにBasic Science Buildingが建てられ、この地域がDownstate Medical Centerとなった。1960年には、ブルックリンの医学教育開始百年記念の行事が行われた。

演者がState University of New York Downstate Medical Center(内科学教室、血液学部門)に留学したのは1961年から一年間である。日本では血液学が独立しておらず、臨床検査も行われていなかったが、アメリカでは血液学部門が独立しており、臨床検査が病院でも部門でも行われていた。

演者は1988年にブルックリンを再訪したが、ニューヨーク州立大学病院の設立、ニューヨーク州立大学の医学部が2校から増加、Medical CenterからHeath Science Centerへの名前の変更などが行われていた。